

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100121		
法人名	社会福祉法人報謝会		
事業所名	グループホーム ミューズの空 青島	ユニット名	1
所在地	宮崎市青島2丁目7番8号		
自己評価作成日	平成26年9月30日	評価結果市町村受理日	平成26年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kihon:true&dlxvovvCd=4590100121-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

馴染みの生活が送れるように、家庭的な雰囲気を大切にしています。職員は「認知症」に対する理解を深めるため、社内研修、DVD勉強会、職員間での勉強会に参加し、知識・技術の向上を目指し、スタッフとの連携を保ちながら、ご利用様が安心して暮らせるようサービスの質の向上に努めています。また、地域の美化活動や行事などに参加し、地域と支え・支えられる関係を築いていけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域とのつながりを深めるために、職員が駅周辺の清掃活動を行ったり、町づくり委員会や地域の行事に参加するなど、地域との交流を積極的に図っている。また、看取りについては家族からの希望が多く、医師や訪問看護、職員が方針を共有して前向きに取り組む、本人や家族に安心感を与えている。災害対策においても、海岸に近いことから地域と連携して津波訓練を定期的実施し、特製の折りたたみ式のリヤカーやライフジャケット等を備え、災害時の対応を行っている。利用者は、恵まれた自然環境の中で、職員の温かいケアを受け、元気に明るく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	1	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業計画の理念、日常の実践としてできることを職員間で話し合って理念を作った。目標として実践に向けて取り組みをしている。		ホーム独自の理念を作成するため、職員全員で話し合い、検討しているが、現時点では新しい理念ができていない。	全職員で話し合い、職員が理解しやすい、実践可能で共有できる、新しいホーム独自の理念の作成を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動や会議には積極的に参加をし、施設行事などには地区長を通して地域の方々に声かけをしていただき、職員が招待状を手渡ししています。		職員が駅前周辺の清掃を行ったり、地域の街づくり委員会や地域の行事に積極的に参加して、地域住民との交流を図っている。また、近隣の保育園や小学校の行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に茶話会などの一緒に過ごせる時間を持ち、参加して頂くことで、認知症の理解や接し方などを知ってもらう機会をつくっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告を行い、最後に意見交換の場を設けて、サービスの向上につなげるようにしている。		会議では、資料により、運営状況等についての報告があり、参加者からは台風対策や戸外のレクリエーション活動等についての助言や提案が多く出され、そこでの意見や提案を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更新手続きやその他の書類提出の際は、窓口に出向き、担当者と話す機会を多くとるようにしている。		市の担当者とは、電話で運営上の報告や課題等についての相談が気軽にできる関係を築いている。管理者は、書類提出時に市の窓口に出向いて、ホームの実情等を説明して交流を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを職員に配布しています。施錠やベット柵等に関しても身体拘束であることを全職員へ定期的に周知しています。		身体拘束のマニュアルを作成し、定期的に勉強会を行い、その弊害を学び、理解に努めている。ただ、各ユニットから玄関フロアに通じる扉は、事故防止の観点から施錠をしている。	職員の身体拘束に対する理解をさらに深め、見守りを重視した対応で身体拘束をしないケアに取り組むことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内に虐待防止マニュアルを置き、職員会議などでの話し合いなど、職員の意欲向上に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が他スタッフに説明したりしていたが、十分に理解しているとはいえない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族との話し合いの中で、理解されていないところはその都度説明し、理解していただけるように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設置しているが、利用者家族だけでの話し合いはされていない。個別に担当者や管理者に意見を言われる。それらの意見を反映して、サービスの改善も行っている。		家族の来訪時に本人を交えて、意見や要望を聞く機会を設けている。また、ホームの行事開催時に家族会を開き、家族同士の話し合いができるよう働きかけを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で、職員の意見を聴く機会を持ち、回答できるものはその場で返答している。困難なものに関しては、上司の助言をもらっている。		毎月の職員会議や朝のミーティングで、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。職員会議では、トイレのモップの取り換え等の提案があり、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を取り入れ、働きやすい勤務状況を作っている。休み時間に関しても、90分必ず取れるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、社内勉強会を年間で実施している。資格取得、外部研修等の補助もある。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列施設の同業種や地区会議には、月1回以上のペースで意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。			

自己	外部	項 目	自己評価	1	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集と職員間での情報共有に努め、安心して生活ができるよう積極的な関わりを心がけている。ご家族にも密に連絡を取り、本人の具体的なニーズをうけとめている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階で見学をすすめ、十分な説明の機会をとっている。また、面会時には必ず状態を報告しながら、家族の意向も聞くように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階で、家族の意向を聞き、事業所の出来ること・出来ないことの説明に心がけている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活行為を行うようにしながら、共に生活をしている事を行い、会話を大事にし、楽しむことで信頼関係を築こうと取り組んでいる。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等の面会時等は、事業所での生活の様子を伝え、在宅での暮らしの状況・助言などを聞かせて頂きながら、大事な一員として関わって頂いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の自宅付近へドライブに出かけたり、家族へ馴染みの人への近況を聞き、伝えている。		家族の協力を得て、自宅周辺をドライブしたり、なじみの関係が途切れないよう、家族から友人や知人の近況を聞き、本人に伝えている。電話支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話や行動がスムーズに行えるようにしたり、意図的に話しかけ、関係づくりの支援をしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	些細なことでも遠慮せずにいつでも相談して下さいと伝え、関係作りを行っています。退所後も相談に乗っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が本人、家族の思いや希望を理解するよう努めている。各担当者が朝礼、夕礼時に報告し、全職員が把握できるようにしている。		センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)の一部を活用し、利用者の思いや意向、生き立ち、趣味等を詳しく聞き取り、把握に努めている。また、日々の行動や表情の中から思いを読み取る工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の馴染みの生活環境、暮らし方の把握に努め、本人らしい生活が出来るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	安心して過ごせるように、生活リズムの把握、変化時のスタッフ間での情報共有と記録によって、それぞれの気分体調に合わせた毎日の過ごし方の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフを中心に、情報収集を行い、本人がよりよい生活ができるよう意見を聴きながら、介護計画に反映している。3ヶ月に一回の見直し、ご家族と担当者会議を行っている。		利用者の視点に立って、本人の思いや希望、家族の意向等をとり入れ、職員のアイデアを反映した介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、状況に応じて適切に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉や行動の事実の記載と、その状況や背景を考えながら記録を行い、気づきやヒント、支援経過記録を介護計画に反映するようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望に応じて、通院や外出等に柔軟に対応している。			

自己	外部	項 目	自己評価	1	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店での買い物など、本人を交えた関わりが出来るようにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じて、納得が得られたかかりつけ医と連携を図りながら、適切な医療を受けられるよう支援している。体調変化時には、随時協力医に相談し、適切な指示や助言を受けている。		利用者や家族が希望する医療機関で受診できるよう支援している。ほとんどの利用者が協力病院を受診しており、往診もあり、気軽に相談やいつでも受診できる良好な関係が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が健康管理を行っている。体調変化時にはその都度連絡している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と常に連携を取りながら情報を把握し、医療機関とも連携を取りながら早期退院につとめている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化、終末期対応希望の確認を行っている。希望された場合には、段階ごとに話し合いを持ち、その都度家族の希望に沿うようにしている。連携医や訪問看護の協力を得ている。		重度化した場合の対応については、利用開始時に本人や家族にホームの指針を説明し、同意を得ている。看取りについては家族からの希望が多く、医師や訪問看護、職員、関係者が方針を共有し、前向きに取り組んでいる。看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、緊急時に備えている。看護師は、24時間連絡体制で対応している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、年2回の防災訓練、津波を想定した避難訓練も実施している。運営推進会議でホームの状況を伝えたり、地域の防災訓練に参加し、お互いに協力できることは何かを協議している。		防災避難訓練を年2回実施している。また、海岸に近いことから、別に津波避難訓練も行っている。特製の折りたたみ式のリヤカーやライフジャケット等を備え、災害時の対応を行い、非常時の備蓄もしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	1	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちの動きに配慮し、気持ちを汲みながらケアにあたるよう心がけている。言葉かけは笑顔でゆっくりと穏やかにを、心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけや名前の呼び方等に笑顔でゆっくりと対応するよう配慮している。特にトイレ誘導時や入浴時の対応には、細心の配慮をし、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の機会を多く持つことで、利用者本位のケアに努めている。昔の生活、家族への想いなど、個々の思い出話をして頂く中で、その人が大切にされている事、不安な事等を知る機会を得ている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の過ごし方を大切に考えている。その日その時の気分で臨機応変の対応ができるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣替えを支援している。化粧やパーマ、毛染め、その人らしさをなくさない身だしなみの支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを考え、手伝って頂いている。干し柿作りやらつきよう漬け、季節感を味わいながら楽しめるよう支援している。	食事の準備や配膳、後片付け等を力量に応じて利用者と一緒に行っている。検査者1名が利用者と一緒に食事をしている。その他の職員は弁当を持参している。	利用者と職員が同じテーブルを囲み、同じ食事を一緒に食べることができないか検討することを期待したい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量を把握し、一日の必要量が摂れるよう支援している。嚥下摂食に問題がある方には、刻み・ミキサー食にして提供しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の観察、4回/日の口腔ケア、1回/日下磨き実施。自力で出来ない方には医療用不織布で口腔清拭施行。毎日就寝前に義歯のポリデント清掃実施。食事前に嚥下体操実施。			

自己	外部	項 目	自己評価	1	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやサインを把握することに努め、個々の力にあった排泄の自立支援ができるようにしている。		排せつチェック表を活用して、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、できるだけトイレで排せつできるよう自立に向けて支援している。日中はオムツを使用せず、リハビリパンツで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、身体を動かす、散歩等を勧めるなどしている。また、個々に合った薬や腹部マッサージ等を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午前中に入浴時間を定めているが、希望に合わせて入浴する事も可能である。		入浴は基本的には週3回としているが、利用者の体調や希望に合わせ、入浴が楽しめるよう柔軟に支援している。入浴を拒む利用者には、言葉かけや日時を変更する等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯、就寝時間は定めているが、個々のリズムに合わせて対応している。眠れない方には、その原因を探るべく、観察・情報交換・話し合いを行い、良眠への支援を行うようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表作成。処方箋一覧ファイルにて各職員が薬の内容、服薬方法、副作用等を確認している。臨時薬、変更時も看護師との連携、情報共有あり。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事で得意なことを毎日の役割としたり、体力のある方には掃除を手伝って頂いたり、それぞれの力や個性を生かせるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人の車を利用した集団でのドライブや買い物を行っている。希望があれば、ご家族の主行事(正月、お盆、法要、結婚式)に参加支援をしていきたい。		利用者の希望に合わせ、近くの神社や植物園、青島海岸に散歩に出掛けている。また、定期的に家族の協力を得て、ドライブや買物に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	1	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に欲しい物を選び、金額を財布からだし、つり銭を受け取るという一連の作業を自分で行えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などへの電話は気兼ねなくかけてもらえるよう言葉かけをしている。また、手紙や年賀状のやり取りの支援をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、リビング和室の空間利用の工夫。季節の花や利用者と一緒に作った作品や行事時の写真などを飾っている。		利用者が快適に過ごせるよう、採光や室温、換気等に配慮が行き届いている。ホールには利用者と一緒に作った作品や行事での写真が飾られ、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他に畳スペース、中庭にはベンチを置き、寛げるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く生活して頂くために、使い慣れたもの等があれば持ち込んで頂くよう家族に伝えている。居室が畳の為、面会時にリラックスされながら過ごせるよう工夫している。		家族と相談しながら、利用者の好みや個性を生かした部屋づくりを支援している。自宅で使用していた寝具や使い慣れた好みの品を持ち込み、安心して居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口ドアへ花などを飾り、分かりやすくしている。洗濯物たたみ、廊下の拭き掃除、タンス整理など、利用者一人ひとりの出来ることをみつけ、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。			